

Winter CHALLENGE 2008 実施報告

Winter CHALLENGE 2008 WG 長 マテリアル工学科 横井裕之

1. はじめに

ものづくり創造融合工学教育センターでは、身近なものづくりの課題について、学生が構想力や表現力を競うコンテストを年に二回、夏と冬に実施している。Winter CHALLENGE は冬休みと春休みを利用した企画であり、もう一つの学生参加型コンテストであるもの・クリ CHALLENGE が「アイデア部門」も設けているのに対して、実際に形（もの）をつくることを主題として実施している。2006年にスタートして以来、今回で3回目の開催となる。

募集テーマは、検討の末、前回と同じテーマで前回以上の作品を製作したいという学生の声があることに配慮し、前回より更に作品を飛躍させてほしいという期待を込めて「あかり'08」とした。テーマ説明は以下のとおりである。

テーマ：「あかり'08」

日々の生活に彩りを添える「あかり」を考える。

「あかり」から放たれる「ひかり」によって、日常のなにげない「空間」やある「瞬間」に楽しみや幸せ、興奮を感じるなど「あかり」に関する提案を形（もの）にする。昨年度に引き続き同じテーマとし、作品の更なる飛躍を期待します。

また、参加者には作品製作費として1件につき2万円まで補助することとした。

2. 実施概要

実施スケジュールは以下のとおりであった。

- 12月17日 テーマ決定
- 12月18日 ポスター配布（図1）、応募受付開始
- 1月31日 参加申込締切（2月19日まで延長）
- 2月29日 16:00- 作品受付 211教室
- 3月3日 10:00-14:00 一次審査 211教室
14:30 1次審査結果発表
- 3月4日 9:50-11:00 最終審査 211教室
（ものづくり教育授業改善成果報告会と合同開催）
11:50 審査結果発表および表彰式

今回の応募件数は合計18件で、代表者の学科内訳は、物質生命化学科6件、マテリアル工学科・知能生産マテリアル系2件、機械システム工学科・知能生産機械系5件、建築学科・環境システム建築系4件、数

理情報システム工学科1件であった。



図1 作品募集ポスター(上部抜粋)

今年度は冬休みを応募の準備に当てられるように、学生へのテーマ発表を冬休み前に行った。開催時期と審査方式はおおむね昨年度と同様であり、3月初めに審査会を行って、一次審査では一般の来場者にも審査に参加していただいた。一次審査会場は、工学部2号館211教室を利用して、ブラインドを下ろすなどしてできる限り暗くすることにより、「あかり」をテーマとする作品の趣旨が来場者に伝わりやすいように配慮した。審査は審査委員（ものづくり委員会委員及びFD委員会委員）3票、一般教職員審査員3票、一般学生審査員1票の投票形式とし、審査委員と一般審査員の票の重みを3:1として評価した。審査委員16名による投票と一般審査員による700票の投票を集計して、上位6作品を一次審査通過作品として選出した。さらに、今年度は全般的に水準が高かったために、佳作を急遽設定して、次点の上位4作品を選んだ。

一次審査通過6作品については、公開形式の最終審査会において応募者が5分間の発表をおこない、会場からの質疑に答えた。評価は工学部長、ものづくり委員会委員およびFD委員会委員からなる審査委員（13名）が作品と発表を採点した。評価項目は、「作品製作目的・着眼点」、「アイデア・獨創性」、「作品の完成度・製作技術」、「作品説明のわかりやすさ」、「テーマとの関連性」であり、各項目を10点満点で採点し、合計

点で順位をつけた。総合点の最も高いものを最優秀賞(1件)、最優秀賞を除いた作品の内、「着眼点」+「独創性」の合計得点が最も高いもの、ならびに「製作技術」の得点が最も高いものを優秀賞(各1件)に選出し、残りを入賞とした。受賞作品は以下のとおりである。

- ・最優秀賞 「カヘン」(図2)
代表 数理情報システム工学科 3年 阿部佑樹
- ・優秀賞(製作技術) 「体心立方照明」(図3)
代表 知能生産システム工学科機械系
4年 新原潤一郎
- ・優秀賞(着眼・独創) 「コーディネー灯」(図4)
代表 物質生命化学科 2年 馬場玲輔
- ・入賞 「夜時計」
知能生産システム工学科マテリアル系
3年 木下優
- ・入賞 「スパイラル ウォータライト」
建築学科 1年 浦川史親
- ・入賞 「DIVE IN UNIVERSE」
代表 物質生命化学科 2年 高橋侑里子
- ・佳作 「エアリフト式あわ照明」
代表 知能生産システム工学科機械系
4年 田中直樹
- ・佳作 「kanekageーあかり」
環境システム工学科建築系
4年 内田壮一郎
- ・佳作 「万華鏡らんぷ」
代表 物質生命化学科 2年 森山織恵
- ・佳作 「"陰"絵(かげえ)」
代表 物質生命化学科 2年 元田龍一

受賞作品には賞状と副賞として図書券(最優秀賞12万円分、優秀賞6万円分、入賞・佳作5千円分)を授与した。

3. 改善点及び検討課題

昨年度からの検討課題の改善点として、冬休み前にテーマを学生に案内することができた。応募作品数は昨年度よりわずかに減ってしまったが、作品の水準が格段に上がったことから、構想を練る時間を十分確保する効果はあったものと思われる。また、昨年度とテーマを同じにしたことも作品の水準向上に大きく繋がったと考えられる。もう一つ、今年度特筆すべき事項として来場者の大幅増加が挙げられる。投票方式が異なるため単純には比較できないが、大まかに見積もって一次審査の一般審査員が倍増した。学生コンテスト行事が学内に浸透してきた現れであろうと期待される。

検討課題は、コンテスト参加件数が頭打ちとなって

いることと、テーマ発表を早めたにもかかわらず、今年度も参加学科に偏りがあったことである。どのような改善点があるか、十分な調査の上で検討していく必要がある。

平成20年度の展望として、新たに開講される「ものづくりデザイン演習I, II」との連携を通じて学生参加コンテストのさらなる充実が図れるものと思われる。

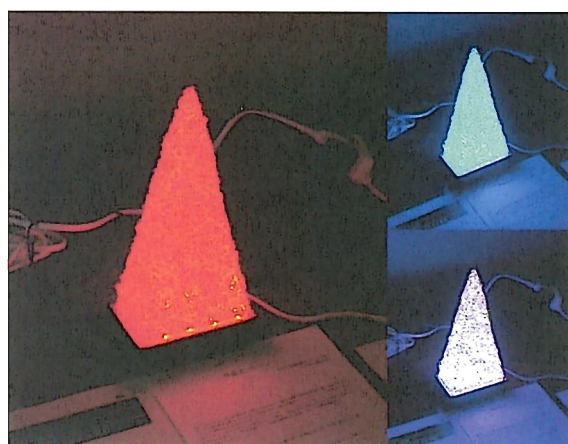


図2 最優秀賞受賞作品「カヘン」

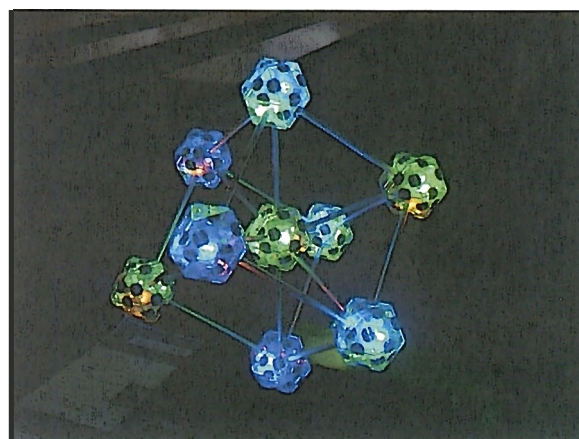


図3 優秀賞受賞作品「体心立方照明」



図4 優秀賞受賞作品「コーディネー灯」